

## 県内の熱中症による救急搬送状況(R3~R5)

### 1 年齢及び傷病程度(初診時)

(単位:人)

年 (調査期間)	搬送 人員数	年齢区分					初診時における傷病程度				
		新生児 (生後28 日未満)	乳幼児 (7歳 未満)	少年 (18歳 未満)	成人 (65歳 未満)	高齢者 (65歳 以上)	死亡	重症	中等症	軽症	その他
令和3年 (4/26~10/3)	597	0	1	59	167	370	4	25	209	318	41
	(構成比)	0.0%	0.2%	9.9%	28.0%	62.0%	0.7%	4.2%	35.0%	53.3%	6.9%
令和4年 (4/25~10/2)	553	0	2	68	141	342	1	10	167	347	28
	(構成比)	0.0%	0.4%	12.3%	25.5%	61.8%	0.2%	1.8%	30.2%	62.7%	5.1%
令和5年 (5/1~7/30)	374	0	4	39	102	229	2	15	93	216	48
	(構成比)	0.0%	1.1%	10.4%	27.3%	61.2%	0.5%	4.0%	24.9%	57.8%	12.8%
対R4同期比 (5/2~7/31)	3	0	2	-19	9	11	1	7	-2	-32	29
対R3同期比 (5/3~8/1)	23	0	4	6	8	5	-1	-1	-33	35	23

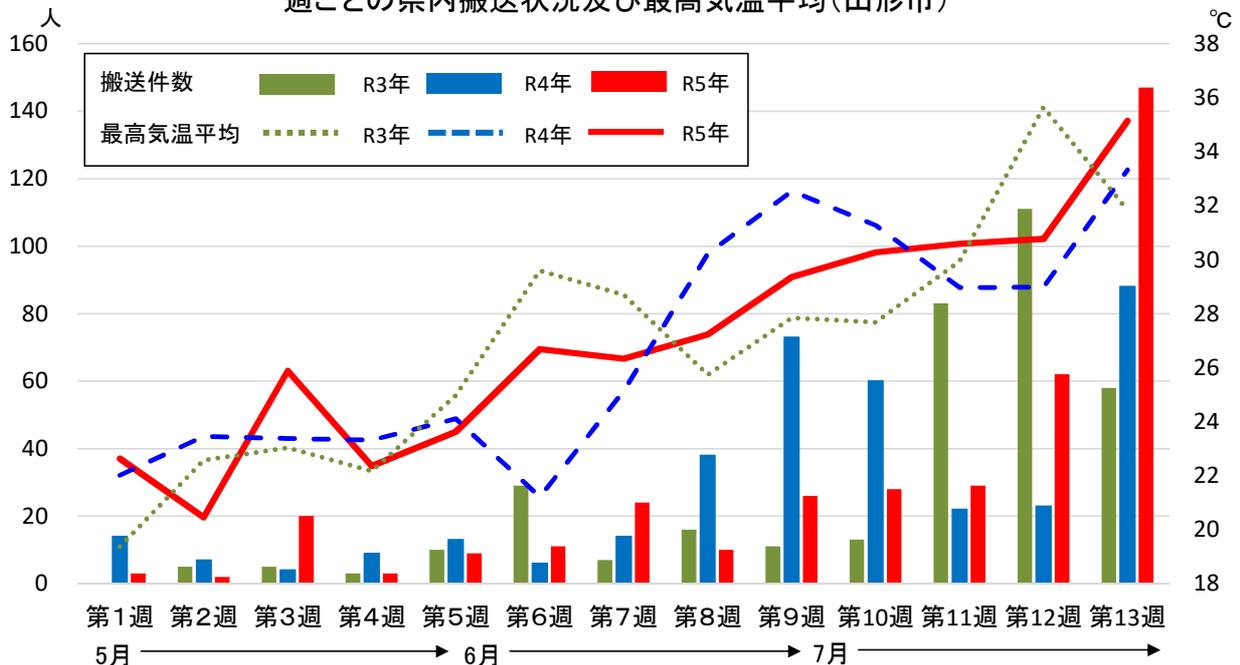
【集計対象】調査期間中に救急搬送した熱中症(疑い含む)の傷病者の人員数

### 2 発生場所別

(単位:人)

年 (調査期間)	搬送 人員数	住居	工場、 工事 現場等	田畑、 森林等	教育 機関	公衆出入場所		道路	その他
						屋内	屋外		
令和3年 (4/26~10/3)	597	272	62	25	27	28	74	54	55
令和4年 (4/25~10/2)	553	237	57	25	37	26	77	61	33
令和5年 (5/1~7/30)	374	161	33	14	13	25	60	42	26
対R4同期比 (5/2~7/31)	3	-3	-3	-3	-18	7	5	9	9
対R3同期比 (5/3~8/1)	23	-1	1	-1	-4	10	16	10	-8

### 週ごとの県内搬送状況及び最高気温平均(山形市)



～適切に予防すれば、防ぐことができます～

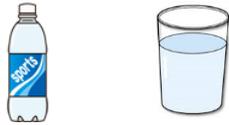
# 熱中症に注意!!

## 熱中症の予防法

**熱中症を防ぐには、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です!**

### 水分補給

- こまめに**水分補給**
- のどが渇く前に水分補給
- 汗をかいた時は塩分も忘れずに



アルコールでの水分補給は×

### 暑さを避ける

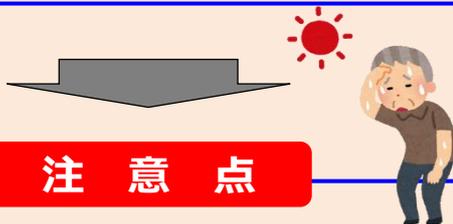
- 屋外では**日傘**や**帽子**を使う
- 日陰を利用する
- 涼しい服装
- 室内では**エアコン**や**扇風機**を効果的に使う
- 車内ではエアコンで適温を保つ



## 高齢者・幼児は特に注意!

### 高齢者の特徴

- 暑さを感じにくい
- のどの渇きを感じにくい

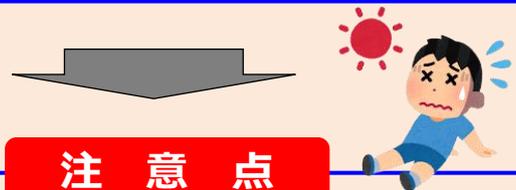


### 注意点

- のどが渇かなくても水分を補給しましょう
- 一人で生活している高齢者の方には、ご家族やご近所などの周囲の方々が声をかけてあげましょう

### 幼児の特徴

- 体温調整機能が十分発達していない
- 身長が低いいため地面からの照り返しの影響を強く受ける



### 注意点

- 保護者や周囲の大人は、子どもの様子を十分に観察し、水分補給や休息などを促しましょう

# 熱中症の対処法

重症度	症状	対処法
軽症 Ⅰ度	手足がしびれる めまい、立ちくらみがある 筋肉のこむら返りがある 気分が悪い、ボーっとする	涼しい場所へ移動 水分・塩分を補給 良くならなければ病院へ 
中等症 Ⅱ度	頭ががんがんする 吐き気がする、吐く からだのだるい 意識が何となくおかしい 	涼しい場所へ移動 水分・塩分を補給 衣服をゆるめる からだを冷やす 良くならなければ病院へ
重症 Ⅲ度	意識がない けいれん 呼びかけに対し返事がおかしい まっすぐに歩けない 	ためらうことなく救急車 (119)を要請

## 熱中症発症事例の主なもの

### 《 幼児の事例 》

- ◆ 水分摂取不足での遊び過ぎ
- ◆ 窓を閉め切った車内への置き去り

### 《 少年の事例 》

- ◆ 屋外での運動中
- ◆ 炎天下での競技応援中

### 《 労働者の事例 》

- ◆ 屋外での作業中
- ◆ 高温多湿な屋内での作業中

### 《 高齢者の事例 》

- ◆ 炎天下での作業中
- ◆ エアコン（冷房）の使用控え

## 公立学校における熱中症事故防止の取組みについて

### 1 校種別の熱中症による医療機関受診状況

(人)

学校	令和5年度 (4～6月)		令和4年度			
			(4～6月)		【参考】(4～9月)	
	受診者	うち入院	受診者	うち入院	受診者	うち入院
小学校	19	(0)	9	(0)	32	(1)
中学校	13	(1)	20	(3)	73	(3)
高等学校	6	(0)	11	(0)	41	(0)
特別支援学校	0	(0)	2	(1)	4	(2)
合 計	38	(1)	42	(4)	150	(6)

### 2 県教育委員会の取組み

#### (1) 「山形県における部活動の在り方に関する方針」の策定・周知

運動部（平成30年12月）、文化部（令和元年7月）

項目	留意事項
天候等を考慮した指導	WBGT（暑さ指数）により環境温度の測定を行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・WBGT31℃以上の場合は、原則、活動中止とすること。</li> <li>・WBGT28℃以上の場合は、参加する生徒の適切な選別、こまめな水分・塩分の補給や休憩の取得、観戦者の軽装や着帽等、生徒の健康管理を徹底すること。</li> </ul>

#### (2) 県立学校及び市町村教育委員会に対する注意喚起

令和5年5月から7月にかけて計4回にわたり通知を発出し、注意喚起を実施。

#### (3) 米沢市内の女子中学生が死亡した事案を受けた対応

県立学校及び市町村教育委員会に対し、「熱中症事故防止の徹底について」（7月31日付）を発出し、改めて注意喚起を実施

#### 《通知の概要》

##### ① 部活動等

- 熱中症警戒アラート発表時は、活動場所の気象条件はもとより、登下校時の熱中症リスク等も十分考慮しながら、活動中止も視野に検討。
- 活動する場合、活動場所の暑さ指数(WBGT)を事前に確認の上、活動の可否を判断。活動中も適宜確認。
  - ・ WBGT31℃以上の場合は、原則、活動中止。
  - ・ WBGT31℃未満の場合も、生徒の健康観察を行ったうえで、部活動への参加の可否を判断するとともに、活動中はこまめな水分・塩分補給や休憩の取得等の健康管理を徹底。
- 熱中症の症状が見られた場合、迅速に、体温冷却や医療機関への搬送等、適切な対応を図る。

##### ② 登下校時

- 児童生徒等に涼しい服装や帽子の着用、適切な水分補給を指導するとともに、保護者に対しても熱中症対策についての注意喚起を行い、連携を図る。
- 活動終了後は、十分にクールダウンを行う等、体調を整えた上で下校させる。
- 活動中具合が悪くなった児童生徒等がいた場合、下校時に体調を再度確認し、気象状況も踏まえ生徒自身による下校の可否を判断。難しい場合、保護者等への送迎依頼を検討。

以上